

活 學

(「活學を講ず」より引用)

国士舘大学 楓教育会だより 創刊号

— 令和時代における「楓教育会」の使命 —

令和元年 7月 1日 (月) 発行

会 長 田 代 和 正

楓教育会だより創刊号に寄せて

学長 佐藤 圭一

この度、楓教育会各位の精力的なご努力により機関誌「楓教育会だより」が発刊されることになりました。誠に喜ばしく存じます。毎年1月に開催される「教員採用試験合格体験報告会」では、「楓教育会の先生方の親身なご指導により自分は合格できました。」「先生方の叱咤激励がなければ、失いかけていた自分の夢は実現できませんでした。」等々、学生からの感謝の言葉で溢れます。

少子化と共に、教職への道は年々険しさを益しておりますが、そもそも国士舘とは“興国救世”を教育の再興に託し、「建学の精神と教育の理念を体現する教育者の養成が国士舘大学の社会的使命と責任である」とする創立者柴田徳次郎先生の固い決意の下に1世紀に亘る歴史を刻んでまいりました。7学部全てに教職課程を設置していることはその証左でもあります。

柴田徳次郎先生は次のように“教育の心得”を語っています。「教育とは、教師が知を愛情で溶かして生徒に飲ませるものであるべきだ。」

この「楓教育会だより」が、“夢を実現させた学生達”の歓喜と感謝の言葉で埋め尽くされますことを、また楓教育会の先生方のご指導の下、これからも“教育の真髄”を修得した多くの卒業生がわが国の教育界を担って行くことを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

.....

楓教育会だより創刊号に寄せて

国士舘大学 同窓会

会 長 坂本 勝矢

この度、楓教育会増刊号が発行の運びに至りましたこと誠にありがとうございます。会長はじめ会員の皆様方の日頃のご活躍の成果の集大成が紡がれるものと大いに期待し心よりお祝い申し上げます。

昭和49年に国士舘大学同窓会が設立されて間もなく、志を同じくする多くの方々が集まり東京都楓教育会の活動が開始されました。当初の目的は、教員として、社会人として立派に成長し、学校を管理、運営できる人物(教員)を育成したい、国士舘大学の卒業生として自信と誇りを持って他大学に負けずに活躍できる教員になってほしいと願って始まりました。その後これを礎にして平成15年12月、初代田邊会長のもと、全国的な組織に改めた楓教育会を発足させたと伺っております。

これにより全国の高校・中学に国士舘魂を持った卒業生を送り込み、この人たちが学校管理・運営に寄与できる教員に育ち、その教え子達が国士舘に進学するというサイクルもまた副次的に生じてくることとなります。

少子高齢化を受けて教員採用が減少し極めて狭き門となっておりますが、指導にあられる楓教育会の先生方のご努力もあって、面接指導、模擬授業・指導案添削等のきめ細やかな教習により年々教員採用試験に合格し採用する学生が増えてきていると聞いております。

本学を卒業した教員の採用が増えることということは、国士舘で育った、国士舘の考えを持った卒業生を、全国にあまねく送り込む、という創立者柴田徳次郎先生の創学の教育実践に繋がるものであると思えます。

大学、同窓会そして楓教育会それぞれに、厳しい狭き門ではありますが教員を目指す学生の為に支援活動を行ってきております。同窓会としましても、こうしたことを踏まえ、学生支援の取り組みとして行っている楓教育会の面接指導等講座に対し例年支援をさせていただいておるところであります。

結びに、楓教育会の益々の発展と揺るぎのない先生方のご努力に敬意を表するとともに伝統を受け継ぎ、変化も受け入れた充実した会報になることを心から応援申し上げます。

令和時代の「楓教育会」の方向性

楓教育会 会長 田代 和正

令和の時代だからこそ、楓教育会として思慮することが重要だと思います。将来日本の教育を担っていく国士舘大学出身の方々に、楓教育会としての「教師道」を身につけてほしいと切に願っています。

さて、日本には伝統工芸や伝統文化といわれるすばらしいものがあります。伝統職人の方々や、剣道、柔道、書道、茶道など「道」のつくものに精進する人の多くは修行という長い道のりを経て、その「道」を究め創造するまで、あらゆる努力と研鑽をしています。人を育てる教師の仕事も「職人」であると私は捉えています。楓教育会は後進の指導のために、「令和時代を担う教育者を育てる」という重要な使命をもっています。

国士舘大学と連携をしながら、楓教育会の「教師道」教育を進めいく覚悟であります。

「活學」という言葉に思う

楓教育会 顧問 阿部 勲

現在の楓教育会の活動は、私がかつて思い描いていた楓教育会の姿を、遥かに超える活動の実態と成果をあげている。この上ない喜びと感動を感じております。

30数年前、現在の楓教育会の前身、東京楓会を立ち上げ。母校の学生の力になれないかを模索し、教員採用試験対策で極めて大事な面接指導をすることになった。そして、組織も全国へと拡大し、平成15年12月に「国士舘大学 楓教育会」が誕生した。

生みの苦しさは若さと勢いで何とか凌いだ、誕生して軌道に乗せるまでの数年間の苦しみは筆舌に尽くし難いものがあったが、ようやく軌道に乗せることができた。その後、大学側の理解と協力を頂き教職支援室もでき、教職を目指す学生たちにとっては最高の環境が整ったわけである。毎年この時期になると、教員になって自分の夢を実現したいという熱い情熱と、その思いを何とか叶えてあげたいが故に厳しくなる指導者との間に、厳粛な中にも魂と魂とのぶつかり合いの場が近づく時期でもある。

この度の「活學」の発刊にあたり、この魂のぶつかり合いの場こそ『子弟膝を交える「活学を講ずるの道場」』に一步でも近づく姿ではあるまいか。

楓教育会の歩み

楓教育会 顧問 田邊 修

令和元年は、「楓教育会」発足17年目を迎えます。今後も大学、同窓会、楓教育会会員の皆様のご支援ご協力をいただき、益々発展していくことを熱望しております。

振り返ってみますと、楓教育会は平成15年12月6日(土)に当時の西原春夫理事長・三浦信行学長・朝倉正昭元学長・体育学部学部長西山一行教授・体育学部須藤明治教授・理工学部福田勇教授・和敏夫同窓会会長を来賓として迎え、楓教育会に賛同していただいた全国の卒業生百数十名が出席して発会式(発足、懇親会)を無事終えました。そして、様々な困難を乗り越えながら今日に至っております。

特に、大学の協力を得て、平成26年4月に教職支援室を設立(世田谷校舎・多摩校舎・町田校舎)していただき、教員養成に関する指導・助言(論文・面接・模擬授業など)を年間を通じできるようになり、教員合格者も毎年、増え、「教職の国士舘」に協力でき、「楓教育会」の重要性を認識していただいています。

時代は「令和」に変わりましたが高齢化、少子化は続き変化の激しい社会になります。今後も「教職の国士舘」を汚すことなく、素晴らしい国士舘大学卒業生として誇りと自信の持てる教員、社会人を育成、そして全国で活動、活躍することを切に望んでいます。そして「楓教育会」があったために、今の自分があると言える人間を育成します。

最後に、国士舘大学、同窓会、楓教育会が益々充実、発展することを願い、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

これからの楓教育会

楓教育会 顧問 筒井 邦夫

国土館大学楓教育会の発会趣意書に「教育関係に身を置く我々として特に教職を目指し、教職課程で学習している学生が卒業後、各地で充実した生活と職業に就き活躍できるように、同窓生として後進のため支援、援助をしてまいりたいと思います。それぞれの地域で活躍されている皆様と情報交換、研修、親睦等で同窓生同士の連携を密にして我が国の教育の充実・発展に寄与したいと考えております」とあります。

令和という新時代に合った方策でこの趣意書の具現化を図ることがこれからの楓教育会の使命であると思っています。楓教育会への若い先生の加入を推進し、SNSを活用した組織運営によって効率よく情報交換・研修を行うことが出来る。大学、卒業生との連携を強化し、各地域の楓教育会を通して教員を目指す学生への教職支援、教員として活躍中の卒業生の昇任支援等を継続することが日本の教育を支え革新する教育者を育成することになります。

各地域の楓教育会活性化には、楓教育会だより「活學」を通して楓教育会の活動内容や趣旨を周知し、会員の拡大を図ることが最優先課題であると考えます。

楓教育会の存在意義

楓教育会 顧問 土居 重一

社会生活を営んでいる我々は、教育によってより良い社会を形成している。良き社会の形成に至るには、良き指導者が絶対に必要である。そこで学校教育における教師の存在は誠に大きいものがある。良き指導者の育成こそ国土館大学楓教育会の使命である。

楓教育会は、昭和62年東京都公立中学校の管理職に体育学部第一期生の阿部勲先生が、昇任されたのを契機に「呱呱の聲」をあげた。その後、田邊修先生の時に全国組織として拡充し現在に至っている。

今後、本会がますます充実・発展していくために必要なのは、相互の切磋琢磨と後継者の安定供給である。大学でも数年前から、教職支援室を立ち上げ教員志望の学生のニーズに応え、本会の会員もこれに積極的に参加し協力している。

国土館大学に学び、その精神を体得した者が横に広がり、先輩が後輩を育てることは、錦を織りなす縦糸と横糸の関係の如くに思える。本会の発展は、日本の教育界に大きく貢献することにつながる。本会が真に機能して世の中に有意な存在になることを願っている。

令和元年6月15日(土)、第17回楓教育会総会を皆様方のご協力・ご支援のもと、終えることができました。引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

令和元年度 「楓教育会」事業計画

1 教員採用試験面接・研修会⇒教職課程運営センター・楓教育会共催

・第1回面接研修会	令和元年 6月22日(土)	世田谷校舎
・第2回面接研修会	令和元年 8月 3日(土)	世田谷校舎
・第3回面接研修会	令和元年 8月10日(土)	世田谷校舎
・赴任前実践力養成講座	令和元年12月21日(土)	世田谷校舎
・第4回面接研修会	令和元年 2月 8日(土)	世田谷校舎

2 会員相互の親睦・研修

3 大学・同窓会との情報交換等

4 楓教育会役員会・総会等

(1)会計監査	令和元年 4月20日(土)	世田谷校舎
(2)第1回役員会	令和元年 5月 9日(木) 18時00分～	世田谷校舎
(3)第17回楓教育会総会	令和元年 6月15日(土) 15時30分～	世田谷校舎
(4)第2回役員会	令和元年11月28日(木) 18時00分～	世田谷校舎
(5)第3回役員会	令和元年 3月 5日(木) 18時00分～	世田谷校舎

楓教育会に大きな期待

国士舘大学
理事長 大澤 英雄

国士舘創立者 柴田徳次郎先生の思いは、私塾創設時から4年制大学の設置でありました。その話を人伝に聞き、私は3年制の短期大学体育科入学（体育学部前身）を決意しました。創立者の願いは、国士舘の教えを広く世に知らしめることにありましたから、世のため、人のため、国に貢献する人材を育てるという建学の精神、教育理念を私たちに教え説き続けました。

創立者には、学生に卒業後、教員・指導者になってほしいという思いが強くあったのです。

昭和20年代、保健体育の授業は、若くて元気な教員が受け持つというのが一般的でありました。しかしながら、昭和31年の文部省 高等学校学習指導要領の改訂に伴い、専科は有資格者が指導するという必要性から、国士舘大学は保健体育科の教員を多く輩出しました。創立者の薫陶を受け体育学部卒業生の九割が教員として全国に散らばっていきました。

当時は、国士舘、日体に始まり、後発で順天堂、東海の各大学、女子は日女体、東女体大学などが体育の教員養成を始めた頃でした。

先見の明があった創立者は、「世のため、人のために尽くせる人間を輩出する」を国士舘の柱に据え、教育界に多くの人材を送り出し続けました。この考えは、吉田松陰先生の教えに通じるものであったと思います。創立者は、文武両道、心身ともに鍛え上げていくことを重視されましたが、その考え方は、現代にも通じるものであります。

現在は、「教員を世に送り出す」ことが厳しい時代です。多くの大学から各種教員が輩出される状況にあります。教員資格を持っていてもこの狭き門の中で実際に教員になれる学生は多くありません。極々限られた人材しか教職に就けない時代ですが、私は創立者の想いを継承します。教職を志願する学生が教育現場に立てるよう、送り出すことに全力を傾注します。

現在、各学部には教職課程・教育学専門の教員がいます。しかし、どうしても、教室での総論や講義が中心となり、教員採用試験対策までには至らないというのが現状です。

この状況を打破するためには、楓教育会、卒業生の皆さんのお力が是非とも必要です。長い教員経験を持つOB・OG、校長・教頭など管理職での貴重な経験を後輩である現役の学生に伝えて欲しいのです。合格率を高めるだけのテクニックのみに走ることなく、楓教育会の皆様方の学校現場で培った「生の教育現場の声」、「求める教師像」を学生に授けて欲しいと思います。きっと、教師を目指す学生の「糧」になるものと確信しています。これまでも、楓教育会の皆さんには種々ご尽力を頂いており、多くの先生方に感謝申し上げます。

大学には毎年、三千人近い学生が入学しますが、年々、教員になる人数は減少しています。その要因は色々ありますが、教員志望の学生が教職試験に合格できないために、諦めてしまうという現実があります。楓教育会の皆様方のご支援で、一人でも多くの学生の夢・思いを叶えてあげて欲しいと切に望んでいます。

私が国士舘に関わって既に60年以上が経ちます。この間、私は一度も国士舘を嫌いになったことがありません。この点をもう自慢してもいいのかなあと考えているくらいです。高校を卒業し、社会人の経験をして、昭和31年に指導者になろう、教員になろうと大学の前身であった短期大学体育科に入学しました。卒業は35年7月。訳あって7月卒業のため、自称、1.5期生になりますが、本学で教員の卵として本当に鍛えられた頃でさえ、国士舘を嫌になってやめようと思ったことはありませんでした。後輩のためにとという思いは、楓教育会の皆さんと共有できるものと信じています。

私は今、法人の理事長という立場ではありますが、学校経営を上手くやるということより、「国士舘の理念、精神、4徳目を身に付けた若者を世に送り出したい。」「人間教育を通して育てられた若者を教員として世に送り出したい。」という気持ちで日々居ります。

結びに、この場をお借りして「楓教育会の皆さん、これからも後輩たちのことをどうぞよろしくお願い致します。」と重ねて言わせて頂きます。入学した教員志望の学生一人一人に、自信を持たせ、夢を叶えようとする力を授けてやって下さい。

私は理事長として、今後も時代の先を見据え、改善すべきは改善し、国士舘大学のよいところ全てを継承していきますので、今後ともよろしく願いいたします。

令和元年6月12日（水）インタビュー、理事長室にて

令和元年度 第1回 教員採用試験面接練習・研修会 開催

6月22日、本学教職課程運営センターと楓教育会が主催する教員志望者を対象にした教員採用試験面接練習・研修会が世田谷キャンパス6号館の各教室で行われ、学生42人が参加しました。

参加者は8グループに分かれ、集団面接、集団討論や個人面接など、教員採用試験に向けた実践的な練習を重ね、講師から直接指導を受けるほか、他の人の面接の様子を見学し理解を深めていました。

(国士舘大学HPより、引用)



令和元年6/22(土) 第1回面接研修会開講式
足立和明副会長あいさつ



令和元年6/22(土) 集団面接研修会

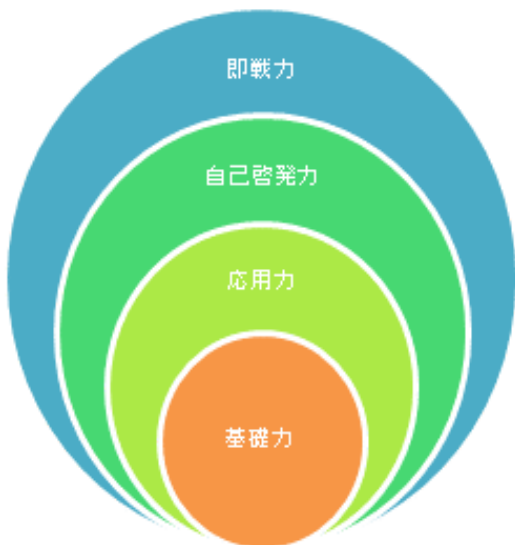
.....

楓教育会は、「教師になりたい」夢を実現するための資質・能力をはぐくみます。

『未来の創り手』に必要な資質・能力を育成するため、教師一人一人が参画して行う、「学校教育目標」を具現化するための教育課程編成、「カリキュラム・マネジメント」の充実が求められています。楓教育会は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に直結する「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」を「育みたい子どもの姿」としてカリキュラム・デザインしていく資質・能力を、「即戦力」としてはぐくみます。

「学び続ける教師」を目指して！

よりよい授業をめざして！



「社会科」模擬授業体験での学びあい
(町田キャンパス教職支援室より)

大学4年間ではぐくみたい資質・能力

編集後記

(1) 「活學」について

1917（大正6）年、創立者柴田徳次郎をはじめとする青年有志が集まり、「活學を講ず」の宣言とともに私塾「國士館」を創立したとの国士館大学HPより引用したものです。

(2) 会員拡大について

予測困難な時代に生きる『未来の創り手』に必要な資質・能力を育む教育が求められています。2020年度大学入試改革・高大接続改革、新学習指導要領全面实施による教育改革が始まります。

今後の楓教育会は、教師を志望する学生の夢を実現させるため、全国の都道府県・政令市の学校教育現場でご活躍されている卒業生との連携を図りながら、「教職の国士館」を支える存在でなければならないという新しい役割を担う時代を迎えています。楓教育会は、東京都を中心に昭和62年度に始まり（32年目）、全国組織として17年目、教職支援室は6年目を迎えます。どうぞ、「教職の国士館」実現のためには、多くの会員の皆様による会員拡大・財政支援をお願いしたいと考えています。ご協力・ご支援をお願いいたします。

(3) 楓教育会の歴史

第17回楓教育会総会を迎える今、今までの流れを振り返ってみます。前身として、1987（昭和62）年度、東京都内の各小中高等学校で活躍されている教職員相互の交流、勉強会などが始まり、国士館大学1期生である阿部勲先生を中心に「東京楓会」が発足したと伺っています。

その後、多くの会員から、東京から関東、全国へとその輪を広げたいとの声が集まり、2003（平成15）年12月、新たに「楓教育会（かえできょういくかい）」として、発会式・総会が行われ、田邊修先生が初代会長として着任し、全国組織化が正式に始まりました。その後、筒井邦雄（2011～2013年）、土居重一（2014～2017年）、田代和正（2018年～）が着任し、現在に至っています。なお、多くの大学関係者のご支援を受け、2014（平成26）年4月、教職志望の学生支援を目的とした教職支援室が、世田谷・多摩・町田各キャンパスに開設されました。

お陰様で、多くの学生が新採用教員として全国で活躍しています。今後とも、引き続きのご支援・ご指導よろしくをお願いいたします。

	会長	期間	備考
東京楓会 初代	阿部 勲	1987（昭和62）年～	東京都教職員中心に活動
楓教育会 初代	田邊 修	2003（平成15）年12月～	発会式・総会
〃 2代	筒井 邦夫	2011（平成23）年4月～	
〃 3代	土居 重一	2014（平成26）年4月～	
〃 4代	田代 和正	2018（平成30）年4月～	